

日本気象学会1995年度春季大会の告示

1. 期 日：1995年5月15日(月)～17日(水)
2. 会 場：気象庁 東京都千代田区大手町1-3-4
KKR東京(旧・竹橋会館) 東京都千代田区大手町1-4-1

3. 研究発表

口頭またはポスターによる。口頭発表は4会場に分かれて行う。ポスター発表は「ポスター・セッションの方法」(次頁)による。

スペシャル・セッションは「大陸スケールのエネルギー・水循環と陸面過程」(世話人代表：安成哲三)が

行われる。その趣旨説明は1月号に掲載予定。

講演申込方法の詳細は、「講演申込要領」(下記)を参照。今回から申込要領が変更されたので、ご注意ください。

4. シンポジウム

テーマは未定。

5. 参加費の払込

郵便振込による前納または当日受付による。前納用の振込用紙は1月号に挿入します。大会当日は混雑しますので、極力前納されるようお願いいたします。

講演申込要領

今回から、発表件数の制限が変更されるとともに、第2種講演に新たな要件が加わりましたので、十分ご注意ください。なお、下記要領の中の不明な点については、講演企画委員会までお問い合わせ下さい。

1. 発表の種類

(1)講演方法には、口頭発表とポスター発表の2種類がある。

(2)このうち口頭発表には、第1種講演と第2種講演の2種類がある。

・第1種講演(発表5分、質疑2分)：発表内容には特に条件はない。

・第2種講演(発表10分、質疑5分)：よくまとまった段階にあり、論文等の形で査読制度のある刊行物に印刷発表することを前提とした研究を発表対象とする。

このため、第2種講演の申込には以下の要件が必要である。

a. 予稿には、1章を設けて明確なまとめまたは結論を書く。

b. 申込用紙には、研究を印刷発表する刊行物名(予定でも可)を書く。

講演企画委員会は予稿をチェックし、第2種講演に申し込まれたものが上記の要件を満たさないと判断した場合には、第1種講演に振り替える。

2. 発表件数の制限

(1)口頭発表・ポスター発表とも、それぞれ1講演者について1件以内とする。ただし、スペシャル・セッションでの発表はこの制限から除く(下記3参照)。

(2)上記(1)の制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に処置する。

3. スペシャル・セッションの扱い

(1)スペシャル・セッションにおける発表件数は、1講演者につき1件以内とする。発表方法は口頭発表に準ずるが、講演時間については世話人の意向によって柔軟性を持たせることができる。

(2)スペシャル・セッションに申し込まれた発表については、世話人が予稿を審査し、スペシャル・セッションでの発表を認めるかどうかを判断する。

(3)スペシャル・セッションに申し込まれた発表が、世話人によってスペシャル・セッションに適さないと判断された場合には、一般の口頭またはポスター発表に回す。この場合には、上記2の(2)の件数制限が適用される。

従って、スペシャル・セッションに申込をする場合には、一般の口頭またはポスター発表へ回された場合の発表方法の選択を(この結果、上記2の件数制限に抵触する場合には、発表の優先順位も)、申込用紙の欄外に記入しなければならない。

4. 申込方法

(1)本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて下記宛先に送付する。

〒305 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

講演企画委員会(藤部文昭)

スペシャル・セッションに申し込む場合には、上記に加えて、下記宛先へ申込用紙と予稿原稿のコピーを送付する。

〒305 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学地球科学系 安成哲三

(2)申込期限：1995年2月20日（月）必着，ただしスペシャル・セッションは1995年2月15日（水）必着。

5. その他

(1)1995年春季大会のプログラムでは，試験的に講演者の索引を作成する予定です。このため，申込用紙には講演者の姓名とそのローマ字表記を明記して下さい。

い。

(2)第2種講演については，なるべく予稿の本文にも印刷発表（予定の）刊行物名を書いて下さい。第1種講演やポスター発表についても，成果を印刷発表する予定であれば，予稿本文への記載をお願いします。

ポスター・セッションの方法

1. 概要紹介に引き続きポスターの前で説明を行う。
概要紹介，ポスター・セッションとも第1日（5月15日）午後に行われる予定（講演数が多ければ他の日時にも行う）。
2. ポスター・セッションは約1時間でこの間は口頭発表は休憩とする。
3. 概要紹介は直前の口頭発表のセッション（会場については講演企画委員会で指定する）で講演者自身が行う。時間は1分程度で OHP またはスライドを1枚だけ用いることができる。
4. ポスターは事務局の指定した場所に掲示する。
5. ポスターの掲示および撤去は講演者自身が行う。
なお掲示に必要な紙またはテープは事務局で用意する。
6. 掲示板は90 cm（縦）×180 cm（横）程度である。
ただし，ポスターは大きな紙一枚に書く必要はない。例えば，B4サイズの紙に分けて描き，当日掲示板に並べてもよい。
7. ポスターには講演題目と講演者名を明記する。

講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は，以下の要領で予稿集原稿を作成し，本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数：1件1枚
2. 用紙：本号末の予稿用紙，またはB4判あるいはA4判の白紙あるいは薄青色方眼紙を使う。原稿はそのまま写真製版され，B5判に縮小して印刷される。
3. 記入方法：用紙に直接書くか，別の用紙に書かれた文書・図表を貼る。
4. インク：墨または濃色インクを使う。ワードプロセッサのインクが薄い場合には，コピーしてから使用する（インクが薄いままだと，字がかすれたり，方眼紙の網目が浮き出たりする場合がある。）
5. 配置

予稿用紙を使用する場合

1行目に標題を書く。標題が長ければ2行目も使う。

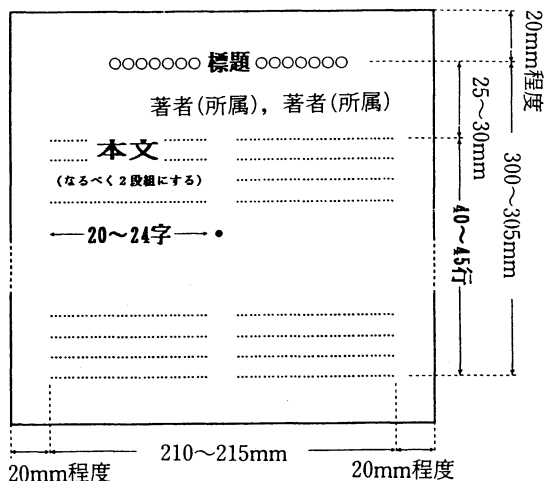
3行目に著者名と所属（勤務先等）を書く。所属は，カッコに入れる。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつける。必要に応じて4行目も使う。

5行目以下に本文を書く。本文は2段組にし，左

半分→右半分の順に書く。

B4判用紙を使用する場合（付図参照）

記載範囲は縦 305 mm 以内×横 215 mm 以内とし，上部には 20 mm 程度の余白をとる。予稿用紙の場合と同様，最上段に標題，その下に著者と所属



B4判用紙による予稿集原稿の作成要領。

を書き、本文をその下につける。標題から本文までの間隔は 25～30 mm とする。本文はなるべく 2 段組（左半分→右半分）にする。

その他の寸法や本文の字数・行数は、厳密に付図の通りでなくてもよい。

A 4 判用紙を使用する場合

記載範囲は縦 250 mm 以内×横 175 mm 以内とし、上部には 20 mm 程度の余白をとる。その他の寸法は B 4 判の場合の 8 割程度を目安とし、全体のレイアウトは B 4 判の場合と同様とする。

6. 図および表

墨または濃い黒色インクで、用紙の枠内の任意の箇所に直接描くか、白紙または薄青色方眼紙に描いて枠内に貼る。写真や図等には折り目が入らないようにする。階調のある写真はうまく出ません。

7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。

8. 送付先・送付期限：「講演申込要領」（852ページ）参照。なお、予稿集原稿を細かく折りたたまないで下さい（2つ折りは可）。

講演企画委員会からのお知らせ——研究会活動への援助について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な援助をします。具体的には、大会プログラム等への掲載、講師を呼ぶ場合は報酬・交通費などの資金、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画

委員会へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：一般講演と同じ

- 記入事項
1. 会の名称とテーマ
 2. 代表者の連絡先
 3. 希望日時・開催場所
 4. 予想参加人数
 5. 希望する支援内容